

川崎市の教育環境整備の取組

～「第1回 学校ゼロエネルギー化推進方策検討委員会」資料～

平成24年1月25日(水)

川崎市教育委員会
教育環境整備推進室

I 川崎市における学校施設の現状と課題

<施設の老朽化>

本市の学校施設においては、老朽化の進行が見られ始める建築後20年を経過した建物が約7割を占めており、既存の建物をより長く使うための建物保全措置が必要となっている。

<施設の質的改善>

一人一人の児童生徒が確かな学力を身につけ、安心して学習に励むためには、高機能かつ多機能な施設環境を備えるとともに、地域との連携、環境との共生、防犯対策、バリアフリー化、健康や安全性など様々な面で十分に配慮される必要があるが、既存の学校施設においては、質的改善が十分に実施されていないままとっている。

<学校施設の環境対策>

地域の中核となっている学校施設においては、地球温暖化対策への取組みとして、環境への負荷低減に資する改修や環境教育の実践が求められており、学校施設の整備の際には、環境対策に積極的に取り組む必要がある。

Ⅱ 対応策(学校施設の効率的マネジメント)

- これまでのように改築中心の施設整備を行うのではなく、既存の建物のライフサイクルを意識した、長期的な視点による効率的なマネジメントを行う。
- 効率的に学校施設を維持保全、改修することにより、より多くの児童生徒・教職員にとって安全で快適な学校施設を整備(施設の機能を底上げ)と環境対策を併せて推進するとともに、学校施設の長寿命化を推進する。

3

Ⅲ 効率的マネジメントの取組の展開

学校施設の効率的マネジメント

施設の「実態把握」及び「評価」

施設の効率的マネジメントを実践するためには、施設の状態面について実態を的確に把握し、施設情報を管理しながら、施設を評価していく必要がある。その結果を、①計画的な施設整備や②安全で快適な教育環境を確保するための個別課題への対応、③長寿命化のための予防型保全の計画の立案等に活用する。

「学校施設実態調査事業」

- 施設の実態把握
- データベース化

効率的マネジメントを実践するための具体的な取組

①既存学校施設再生整備

校舎老朽化への対応としての改修(長寿命化)に併せて、教育環境の質的改善と環境対策を計画的に実施

②安全で快適な教育環境整備

トイレ改修やエレベータ設置等、特にニーズの高い個別の重点課題に優先的に対応するための改修事業

③長寿命化やコスト平準化のための予防型保全手法の導入

施設をより長くよい状態で使うための保全手法(適切な維持管理)

4

Ⅲ① 既存学校施設の再生整備

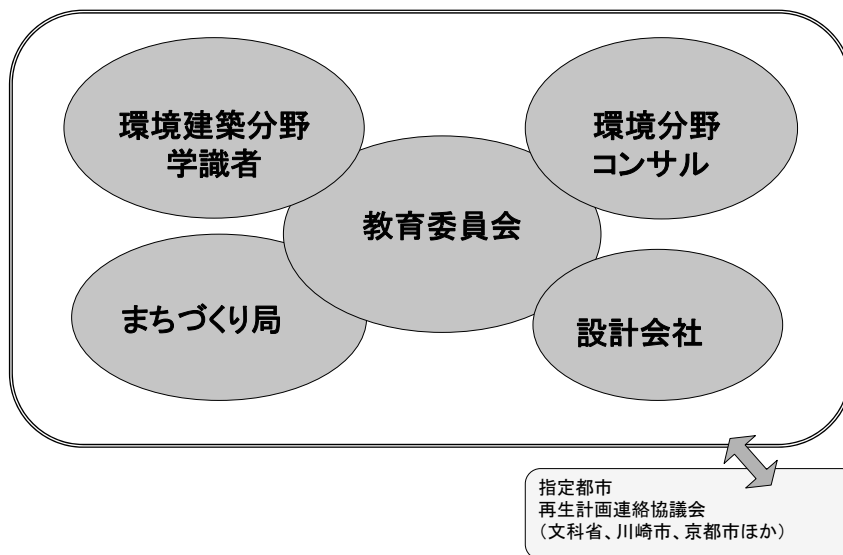
◆深刻化する老朽化、質的整備の遅れ、地球温暖化対策等の既存学校施設が抱える課題に対応するために計画的に再生整備(改修)を進める。

◆学校の老朽化の度合い、保有する設備の状況等に応じ、学校ごとに最適な改修メニューを組み合わせ、効率的に再生整備を行い、早期に施設の機能の底上げと長寿命化を実現する。

備えるべき防災機能の検討

5

<再生整備事業 事業実施体制イメージ>



既存学校施設再生整備事業 モデル校の選定

平成24年度～27年度(4ヵ年)

西丸子小学校

(スクールニューデールにて100kwの太陽光パネル、
環境学習室整備済(蓄電機能付))

久末小学校

(防災・ECO体育館)

久末小学校温熱環境の説明
調査: 佐藤エネルギーリサーチ株

Ⅲ②安全で快適な教育環境整備

学校トイレ環境整備事業

児童生徒が一日の大半の時間を過ごす学習・生活
の場である学校施設の教育環境の快適化の一つと
して、老朽化や現在の使用状況に合わなくなっ
ている学校トイレの環境整備に取り組んでいく。



学校のトイレ事情

- ・ 老朽化したトイレ
くさい
汚い
暗い
- ・ 現在の使用状況に合わないトイレ
和式便器が中心



9

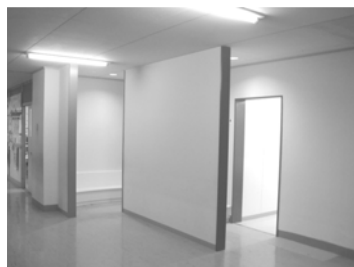
改修内容

- ・ 便器の洋式化
- ・ 床仕様のドライ式化
- ・ 洗面用水栓の自動化
- ・ 小便器の自動洗浄化
- ・ 人感センサー付き照明
- ・ 段差の解消、
手すりの設置など

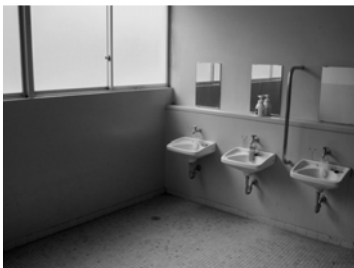


ワークショップ

- ・ 児童生徒の意見を反映
- ・ 自分たちの作ったトイレだ
という意識付け
- ・ 愛着を持って大切に利用する
- ・ トイレの問題に興味、関心を
抱く
- ・ 節水や節電など環境教育に
生かすなど



出入口改修例



手洗い改修例

13



男子トイレ改修例

14



女子トイレ改修例

15



大便器改修例

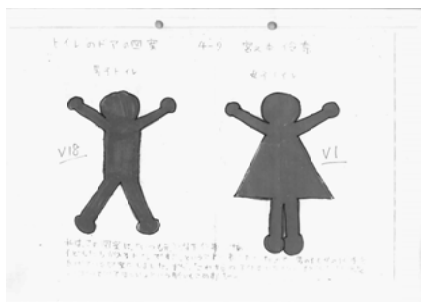
16



トイレ改修施工例



**トイレサイン
施工例①**



トイレサイン 施工例②



19

既存校舎へのエレベータ設置

○エレベータ設置の目的

主に肢体不自由児学級に所属し、階段昇降時、教員や介助員の力を借りなければならない児童生徒のため、既存校舎へエレベータを設置。

エレベータ設置校（仮設校舎含む）（平成23年2月現在）

		設置済	未設置
小学校	113	40	73
中学校	51	22	29
合計		62	102

20

○エレベータのない学校では…

**教員・介助員による介助や階段昇降機を配備することで、
障害のある児童生徒の階段の昇降に配慮。**

問題点：エレベータに比べ時間がかかり、休み時間内での移動が困難である。
教員・介助員の負担だけでなく、介助を受ける児童生徒の精神的負担が大きい。



21



エレベータ施工例



22

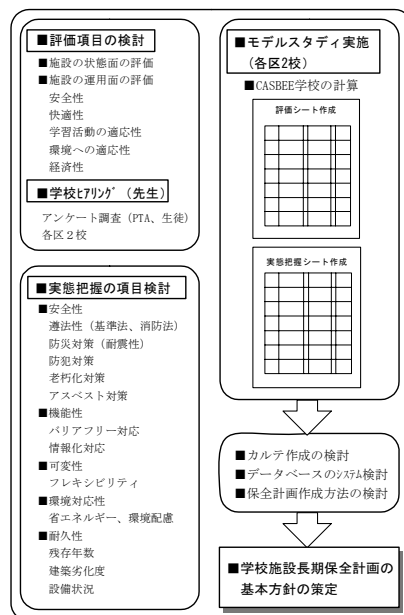
Ⅲ③ 長寿命化やコスト平準化のための 予防型保全手法の導入

現状と課題

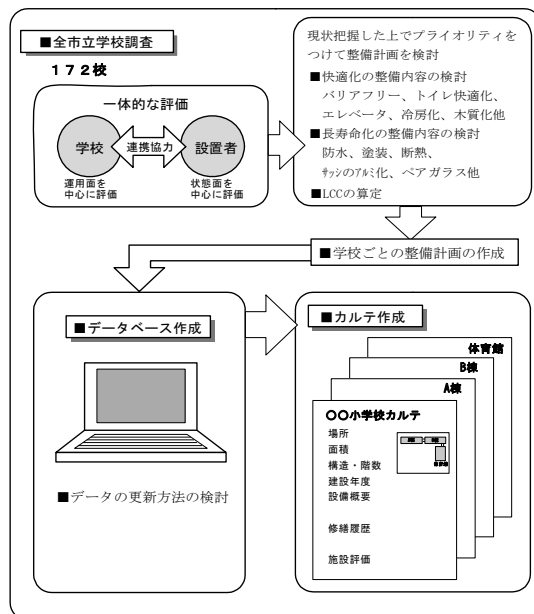
- ・建築後20年以上の建物が7割を占め、老朽化進行
- ・多様な指導方法に対応した高機能・多機能な施設環境の整備
- ・防犯対策、バリアフリー化、快適化、環境負荷の低減などへの配慮
- ・安全性、快適性、学習活動への適応性、環境への適応性、経済性の5つの視点で実態を把握・評価
- ・データベースの作成・学校カルテの作成
- ・既存再生による長寿命化、コストの平準化めざした長期保全計画の策定

学校施設の効率的マネジメント

学校施設長期保全計画の基本方針



評価・実態把握の実施・データベースの作成



長期保全計画の策定

